

為替市場

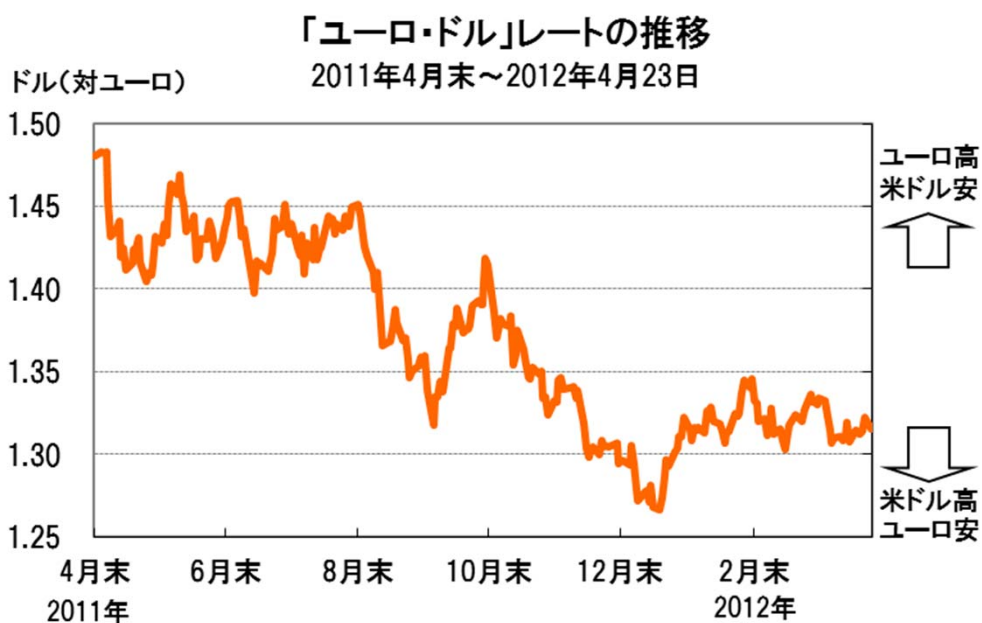
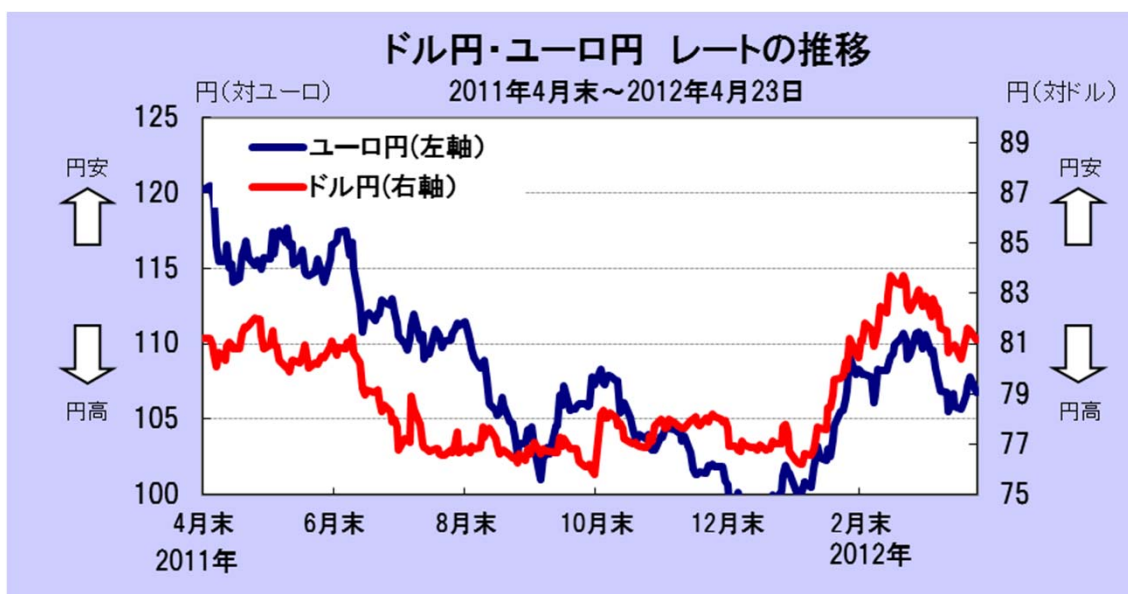
作成日：2012年4月24日
作成者：杉本年史

■ 4月の市場動向：ドル、ユーロに対し円高。ユーロはドルに対しても弱含み。

ドル・円：4月23日現在 81.18円（3月末は 82.87円） ⇒ 2.0%の円高/ドル安

ユーロ・円：4月23日現在 106.81円（3月末は 110.56円） ⇒ 3.4%の円高/ユーロ安

ユーロ・ドル：4月23日現在 1.315ドル（3月末は 1.334ドル） ⇒ 1.4%のユーロ安/ドル高



データ：Bloomberg

■ 市況の変化と要因

【円高要因】

- 米労働省が6日に発表した3月の雇用統計で、非農業部門の雇用者数が12万人増と事前予想(約20万人増)を下回ったことから、景気回復を持続させるため追加金融緩和を実施する必要があるとの観測が広がったことがドル売り要因に。
- 米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長が「米国の景気回復は完了からは程遠い」との認識を示したことを受け、追加緩和観測が台頭し、円への逃避需要が高まったこと。
- 日本銀行が10日の金融政策決定会合で、一段の緩和策に踏み切らなかったこと。

【円安要因】

- 日銀の白川総裁が、消費者物価の上昇率で前年比+1%を目指し、金融緩和を推進していく姿勢を再度強調したことが、4月下旬の円安要因。

【ユーロ安要因】

- スペインの銀行の欧州中央銀行(ECB)からの借入れが前月から約50%増えたこと、同国銀行の不良債権比率が2月時点で8%と約17年ぶりの高水準となったことが明らかとなり、欧州債務問題が再燃したこと。
- フランス大統領選挙の第1回投票で、社会党のオランド候補が現職のサルコジ大統領を抑えて首位に立ったこと、オランダのルッテ首相が財政緊縮策をまとめきれず内閣総辞職の意向を女王に伝えたこと。

■ 今後の見通し

日本の貿易収支は当面赤字基調が続くとみられます。長期的なトレンドとしては、米国景気の緩やかな回復を背景にドル高を予想しています。通貨ユーロについては、スペインやポルトガルなどの財政状況をめぐる不透明性は大きく、ユーロ圏には解決されていない根本的な構造問題が依然存在していることなどから、弱含みの展開を予想しています。

【 注 意 事 項 】

- 当資料は、情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。
- 当資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料は、キャピタルアセットマネジメント株式会社が、信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料におけるデータ・分析等は過去の実績に基づくものであり、将来の運用成果および市場環境の変動を保証もしくは示唆するものではありません。